

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4077900159		
法人名	医療法人 福田病院		
事業所名	グループホーム とまと		
所在地	福岡県三潴郡大木町大角1133-3 (電話) 0944-75-2345		
自己評価作成日	令和 4 年 12 月 25 日	評価結果確定日	令和 5 年 3 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

同法人内の勉強会に参加し認知症状や権利擁護・身体拘束等について学び、慢性的な介護にならないよう取り組んでいる。センター方式を活用しながらアセスメントを実施している。
ユニット間の間仕切りが開閉式になっており、入居者同士の交流が行いやすく、イベント時等は大勢が集まって取り組める。
母体が病院の為、医療連携による週一回の看護師訪問やドクター往診を受けている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 5 年 2 月 10 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の周辺は民家・田んぼが多く、県道から少し入ったところにある静かな環境の中に位置している。ユニット間に敷居はなく、広いフロアで利用者間の交流もあり、職員は2ユニットの利用者全員の情報共有に努めている。母体が病院で、隣には同法人の特別養護老人ホームがあり、利用者の心身状態が変化した時の支援体制を整えている。職員も地域の一員で暮らしの場であることを踏まえ、利用者のペースで尊厳をもって生活ができるように支援を行っている。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティング時に理念を唱和し、意思統一を図っている。入居者懇談会やアセスメントを通し、本人本位に基づく暮らしの支援をしている。	事業所の理念があり、毎月の職員会議で理念について話をする機会を設けている。笑顔で利用者本位の生活を支え、利用者から教えてもらっているというスタンスで、介護を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の祭りや行事に参加している。年2回の茶話会、夏祭り、クリスマス会に地域の方を招いている。今年はコロナウイルス感染防止のため地域の方は不参加である。	町内会に参加をしている。以前は地域の方の訪問も多く、玄関先に事業所の広報誌を置いて自由に持って帰ってもらっていた。地域の中の施設であるという認識のもと、コロナ禍前のような地域の交流ができるように感染情報、行政の方針、法人としての役割なども鑑みながら対応を検討する予定である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町で開催される認知症サポート講座に管理者が参加。地域の公民館に出向き、認知症の方の行動パターンなどを一緒に共有し、理解を深めていただくよう努めている。今年はコロナウイルスにより実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し入居者の概要・介護度・年齢・活動状況・ヒヤリハット・苦情等の報告を行い、市町村代表や区長、民生委員、家族代表と意見交換を行っている。また、その意見を運営に反映させている。今年度はコロナウイルス感染防止の為、5回のうち1回のみで開催であった。	運営推進会議は集合での開催を予定しているが、感染状況によって書面で行っている。参加者には事前に電話連絡を行い、ヒヤリハット、事故報告、利用者状況、研修報告等の資料を渡し意見をいただくようにしている。頂いた意見は、職員会議で検討してサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年4回行われるケアマネ連絡会に管理者が出席し、情報交換を行っている。また、運営推進会議には行政担当者が出席、助言を得ている。	市町村の担当者とは日ごろから制度に関することやコロナのワクチン接種等について相談報告している。コロナ禍前にはコミュニケーションセンターでオレンジリング活動に参加していたので、今後も依頼がある時は感染予防策を講じたうえで参加を検討している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の会議にて身体拘束の実施状況を確認、身体拘束になるような事象について話し合いを設けている。身体拘束委員会を設置し、3ヶ月毎に職員間で話し合いの場を設けている。	日中、玄関・居室は施錠されていない。玄関にセンサーチャイムを導入し、中庭に出るサッシはロックをしているが、利用者自身が外出しようとする時は同行し、中庭へ出そうな時は職員が前もってロックを解除して利用者が出られるような環境にしているため利用者は抑圧感のない生活はできている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	法人内部研修の参加や、職員会議時に虐待等に関わる事案等がなかったか確認する事で他の職員も虐待防止について学んでいる。関係資料は事務所に配置し、必要時には情報提供や活用に向けて支援ができるように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を実施し、職員会議時発表する事で他の職員も権利擁護について学んでいる。関係資料は事務所に配置し、必要時には情報提供や活用に向けて支援ができるように努めている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度等の権利擁護に関する資料を用意している。法人研修に参加し、職員会議で伝達研修を行い、職員全員が権利擁護について学んでいる。利用者家族には、契約時に制度について説明している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や料金改定時には十分な時間を確保し説明を行い、理解・納得していただき同意を得ている。疑問、質問等は随時受け付けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回開催する運営推進会議にて、幅広い意見が聞けるように毎回違った入居者ご家族に参加依頼、協力を得ている。また、入居者懇談会、家族会を開催し、入居者や家族の要望も取り入れている。今年はコロナウイルス感染予防の為、運営推進会議は1回のみ開催、家族会は中止とした。	利用者からは季節ごとの懇談会の折に意見を求めるようにしているほか、日々のケアの中で利用者と二人になった時も話ができている。家族からは毎月の支払時や他科受診で来られた時に管理者が声掛けし、家族からの意見を反映させ、窓越しの面会を行ったこともある。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議時に職員の意見・要望を提案する機会があり、運営に反映している。また、日々の業務の中でもコミュニケーションを図るよう心掛け、意見を聞き出すようにしている。	職員は会議時に意見を述べる機会があり、日常的に管理者は職員に声をかけている。職員からのアイデアで備品の購入を検討するなど職員の意見を運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課を実施。ワークバランスをなるべく均等にしたり、職員に確認しながら業務改善を行ったり、労働環境の整備を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用時は制限を設けず、人柄や働く意欲のある人を重視している。また、幅広い年齢層の職員を採用している。研修や資格取得のためのバックアップ体制を取り、社会参加や自己実現の機会が得られるようにしている。	採用に関しては法人が行うが、年齢や性別などで排除することはない。定年はあるが、定年後の再雇用制度もある。家族等の所用によるシフト調整を行ったり、入職して資格取得を目指す職員も多いため、休暇などを取りやすくする等、職員が安心して働ける環境作りに努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の尊厳を尊重することを理念に掲げ、人権教育、同和問題について内部研修を実施。研修内容は全職員で共有できるように、報告の場を設け配布している。	利用者の人権に関する法人内部研修を受けて職員会議で伝達研修を行う等、職員に対する人権教育に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を共有すると共に研修の参加を呼びかけている。また、職員会議にて研修報告の場を設けている。自己啓発のための資格取得を志す職員に対しては、勤務日程の調整を行い、研修に参加しやすいよう取り組んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接している特別養護老人ホームの慰問に参加している。また、入居者と相互訪問し交流を図ることでサービスの質を向上させる取り組みをしている。今年度はコロナウイルス感染防止の為中止とした。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前や入居時に本人より希望や要望を時間をかけて尋ねよう努めている。また、新しい希望や要望が見つかった場合には、家族に報告し、解決を図るよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	パンフレットの配布や見学（コロナ禍では写真を見てもらっている）をしてもらい、雰囲気や味わってもらっている。相談時や面会時に家族の意向を確認している。入居後しばらくは要望等に対しての報告を随時行い、家族との関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居見学时に家族との面談からどういった支援が必要なのかを確認し、必要であれば他サービス等の説明を行い対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴に応じて園芸や野菜の収穫・野菜そろえや洗濯物たたみ・食器拭きなど、職員と一緒に作業を行っている。日常的に共に過ごし支えあう関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に2回家族も参加して頂く催し（夏祭り・クリスマス会）を開催し、入居者と過ごして頂く事により、共に本人を支える機会を作っている。また、家族との外出や自宅へ時折帰られる入居者もいる。今年度はコロナウイルス感染防止の為、中止とした。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染率が減少した際には面会制限を緩和し、知り合いや近所付き合いのあった方との面会を実施し、関係性が途切れないように努めている。	契約時に生活歴などを聴き取るほか、日々の生活の中でも日向ぼっこをしながら利用者と二人でゆっくりとする時間に馴染みの場や人の話を聞くようにしている。コロナ禍で面会は制限しているが、電話の取次ぎや手紙のやりとりの手伝いは継続して行っており、関係が途切れないように支援を行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の些細なトラブル等もミーティングにて情報共有し、関係を把握している。テーブル席の配置等考慮している。レクリエーション活動の参加の声掛けを行い、孤立しないよう支援を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設入所で契約が終了しても、同法人内の病院や施設であれば状態確認を尋ねた。入居者も同行し面会する事もある。今年度はコロナウイルス感染防止の為控えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者一人ひとりに担当職員を配置、センター方式を活用し、本人の意向の把握に努めている。年3回の利用者懇談会での意見や要望も日々の暮らしに反映している。	日々の関わりを通じて、表情等を見ながら利用者の思いに寄り添い、本人本位の視点で把握に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や関係者より生活歴や環境、サービス利用の経緯等を尋ね把握に努めている。入居前施設や自宅に面談に出向き、本人の状態把握にも努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や日中での様子観察を行いながら、一日の過ごし方や状態変化等を記録し、朝夕の申し送りにて情報共有を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族、職員の意見を反映した介護計画を作成している。各入居者に担当職員がおり、6ヶ月に1回又は状態変化に応じモニタリング・介護計画を見直している。	利用者や家族の意見等をもとに関係者で話し合い、介護計画を作成している。6ヶ月1回、利用者や家族の要望や心身の状況の変化のたびにモニタリングやアセスメントを行い、介護計画を見直している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日常生活の様子やケアの実践・結果、気づきを記入し、情報を共有している。また、対応方法の変更の場合には、職員が数日間試した事の対しての記録を残し、それを基にカンファレンスを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の嗜好を制限をすることなく、入居者、家族の要望に応じている。個別の外出支援の際には家族と一緒にいく場合もある。今年度はコロナウイルス感染防止の為に実践できていない。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	無断外出時の搜索の協力を所轄の交番に依頼している。公民館での行事・活動への参加を行い、地域の方と一緒に活動を行っている。今年度はコロナウイルス感染防止の為実践できていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望するかかりつけ医の確認を行い、現在は同法人の病院受診を受けている。同法人以外にも受診支援を行っている。毎月担当医師の往診を受けており、また週に1回看護師が訪問、医療連携を実施し状態変化に対する相談対応も行っている。	利用者や家族が希望する医療機関の診療が受けられるように支援している。通院は家族または職員が付き添っている。受診の結果等については、家族と共有している。医療機関と24時間の連絡体制を構築している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の病院看護師と連絡が取れる体制であり、夜間の急変時も指示を仰ぐ事ができる。介護職員が気づいた状態変化はすぐに管理者、病院看護師へ報告し、適切な受診やケアを受けられるように支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	洗濯物預かり交換のため病室へ立ち寄り、看護師に状態確認、把握に努めている。地域連携室と情報交換ができ、必要時に相談できる関係である。今年度はコロナウイルスによる面会制限もあり、病院のSW・病棟看護師との電話連絡にてやり取りを実施した。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化に伴い連携医療施設との連携を図りながら、重度化や終末期のあり方については家族の意向を組みながら対応している。また、その際は施設での対応等説明を行いながら随時連携機関との共有を図っている。	看取り指針と同意書を作成し、説明を行っている。緊急時のマニュアルを整備し、医療機関と連携して、利用者や家族の意向を踏まえ、全職員で看取り介護に関する方針を共有し、利用者や家族の思いに寄り添う支援に取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について定期的に研修を実施、その都度職員会議にて全職員学んでいる。緊急時の対応マニュアル等、事務所内の目の届くところに配置している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の指導を受けて、火災・災害避難訓練・通報訓練を実施している。訓練後の消防署の講評や事後評価による反省点や気づきを踏まえ、災害時に活かせるよう取り組みを行っている。居室入り口には、個別の誘導方法等を明示したプレートを掲示している。	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て、隣接する同法人の事業所と合同で昼夜間を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議で、コロナ禍での密を避け、モニターとして参加協力の呼びかけを行っている。また、非常用食料や飲料水、排泄用品等を準備をしている。訓練後、消防職員や参加者からの意見や気づき・教訓を次回に活かすように取り組んでいる。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の要望や訴え等に対して誠意を持って対応し、名前の呼び方、居室やトイレドアの開閉等の配慮と支援を行いながら、個人の尊重に努めている。職員ミーティングの中で、接遇や不適切な支援について振り返る機会を持ち、内外の研修機会を確保し、職員の意識を高める取り組みをしている。	定期的に内部研修を実施し、職員の意識向上を図っている。管理者は、日頃の関わり方について共に考え、必要に応じて助言を行っている。利用者のその人らしい尊厳ある姿を大切に、言葉かけや笑顔での対応を心がけている。また、個人情報の適切な取り扱いや秘密保持の徹底に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人一人が自己決定や自分の思い等を出出出来るような雰囲気等の環境整備を心がけ働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中での過ごし方や夜間の入床される時間等の様々な場面における自己決定を尊重し、なるべく入居者の希望に近づくような支援に取り組んでいる。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回外部より理容訪問を受けている。家族、本人より希望がある場合は馴染みの理容室へ家族同伴で支援していただいている。今年度はコロナウイルス感染防止の為理容訪問のみを受けている状況。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者懇談会にて嗜好や量について要望を聞き取っている。また、季節を感じられるよう行事食の提供や状況により入居者に料理や後片づけ等の役割を担っていただいている。今年度はコロナウイルス感染防止の為、外出支援は実施できていない状況。	旬の食材で利用者の好みの献立や味付けを取り入れ、家庭的な雰囲気を提供している。利用者と職員と一緒に後片付けを行っている。干し柿作りに利用者が参加したり、菜園で収穫した玉葱・かぶ・さつま芋を調理する等、利用者が楽しく食べれるように工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回食事量や水分量は記録し、摂取量の度合いにより看護師や医師に相談している。入居者の好みの物が摂取できるように家族の協力を得ている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、支援が必要な入居者には一人ひとりにあった口腔ケアを支援している。義歯洗浄も行い清潔保持に努めている。また、訪問歯科医による指導・助言を受け、支援に活かしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、個別のパターンの把握やサインを共有し、日中はトイレでの排泄を基本とし、さりげない声掛けや誘導により、排泄の支援をしている。パットの使用も各人の状況により使い分け、不快感を和らげ、清潔を保っている。	トイレの目印を立体的で分かりやすく表示し、車椅子でも使用しやすいようにトイレが整備されている。職員は、利用者の排泄パターンや兆候を見逃さず、自尊心に配慮しながら誘導している。介護用品の使用は、随時、関係者で話し合って見直しを検討する等、利用者がトイレで気持ちよく排泄できるように支援している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックにて確認し、牛乳や発酵乳製品、繊維物を食事に取り入れれたり、定期的に体操・運動を行い自然排便を促している。又、医療連携にて整腸剤等も含め対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日多くの方が入浴できるよう午前中から準備し、入居者の希望や体調、状況に応じて対応している。週に2回は入浴できるよう入居者に意思確認し、入居者の意向に合わせている。2つの浴槽が設置しており、気の合う入居者同士で入浴されることもある。	大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の希望に合わせて柔軟に対応している。2つの浴槽を設置し、仲のいい利用者同士で一緒に入浴したり、湯ぶねから見える手入れの行き届いた庭園の風景が入浴時の楽しみになるように配慮されている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明、室温、衣類など調整に気を配り、自宅で使い慣れた寝具類を持参して頂き、安眠を確保している。入眠時間や起床時間は本人のペースに合わせており、本人の生活パターンにあわせた援助を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の効能・効果、注意事項等が記載された用紙を個人記録に綴っており、いつでも確認できるように配置している。内服薬の変更については申し送りにて伝達している。職員は病状の確認に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	計算プリント、絵・漢字カード、歌詞を見ながら歌を唄うなど、個人に応じた機能が発揮できるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日には担当者と外出に出かけたり、月行事にて季節の花見やドライブなどの支援もしている。家族の協力も得て、定期的に自宅へ帰られる方もいる。南向きにあるテラスや中庭に車椅子用のスロープが設置され、天気が良い日には外気浴を楽しんでいる。今年度はコロナウイルス感染防止の為外出等は実施できず、中庭・周囲の散歩を行っている。	天気や利用者の体調に応じて散歩に出かけている。普段行けない場所に家族の協力や職員の同行支援により利用者の外出支援を行っていたがコロナ禍で出来ていない。気分転換の機会として密を避けての外出支援を検討している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族承諾のもと、自分で少額所持されている方もおられる。金庫でお小遣いを預かっている入居者の方でも、希望時には家族へ確認し、必要に応じて希望の物を購入したりしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	2ヶ月毎に入居者の写真を送り、その際スタッフが日常生活の様子等を報告している。また、入居者が電話を使用したい場合等は自由に使用できるようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、日当たりのよいホールは明るくゆとりのある広さの開放的な共有空間である。室内の壁には行事の写真を掲示し、中庭に面して配置されたソファーには、その時々々の居場所として、豊かな暮らしの語り合いの場となっている。テレビの音量も入居者の希望に応じて調整。気温や湿度に気を払い、定期的に換気や空調管理をしている。	共有空間は、明るく開放的で利用者が集い、気の合った利用者同士でカラオケ・笑談など思い思いに過ごされている。中庭に桜・紅葉・満開のサザンカや草花を植え、外気浴でリフレッシュできるよう配慮されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士が談話したり、テレビを見たり、自由に出来るようにしている。中庭には椅子を置き日光浴もできるなど、仲良く過ごせる場を提供している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの家具、寝具、家族の写真等の持ち込みをお願いしている。居室入り口の名前プレートの裏面には、個別の状態の応じた避難方法が示されている。	居室は家族の協力を得て、使い慣れた家具、寝具やソファ等が持ち込まれ、家族写真や利用者の笑顔の写真も貼られている等、利用者が安心して居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで段差がなく手すりやスロープが設置されている。各居室には名札や写真を飾り分かりやすいようにしている。可能な限り自力での移動、動作を支援している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティング時に理念を唱和し、意思統一を図っている。入居者懇談会やアセスメントを通し、本人本位に基づく暮らしの支援をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の祭りや行事に参加している。年2回の茶話会、夏祭り、クリスマス会に地域の方を招いている。今年はコロナウイルス感染防止のため地域の方は不参加である。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町で開催される認知症サポート講座に管理者が参加。地域の公民館に出向き、認知症の方の行動パターンなどを一緒に共有し、理解を深めていただくよう努めている。今年はコロナウイルスにより実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し入居者の概要・介護度・年齢・活動状況・ヒヤリハット・苦情等の報告を行い、市町村代表や区長、民生委員、家族代表と意見交換を行っている。また、その意見を運営に反映させている。今年度はコロナウイルス感染防止の為、5回のうち1回のみ開催であった。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年4回行われるケアマネ連絡会に管理者が出席し、情報交換を行っている。また、運営推進会議には行政担当者が出席、助言を得ている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の会議にて身体拘束の実施状況を確認、身体拘束になるような事象について話し合いを設けている。身体拘束委員会を設置し、3ヶ月毎に職員間で話し合いの場を設けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	法人内部研修の参加や、職員会議時に虐待等に関わる事案等がなかったか確認する事で他の職員も虐待防止について学んでいる。関係資料は事務所に配置し、必要時には情報提供や活用に向けて支援ができるように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を実施し、職員会議時発表する事で他の職員も権利擁護について学んでいる。関係資料は事務所に配置し、必要時には情報提供や活用に向けて支援ができるように努めている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や料金改定時には十分な時間を確保し説明を行い、理解・納得していただき同意を得ている。疑問、質問等は随時受け付けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回開催する運営推進会議にて、幅広い意見が聞けるように毎回違った入居者ご家族に参加依頼、協力を得ている。また、入居者懇談会、家族会を開催し、入居者や家族の要望も取り入れている。今年はコロナウイルス感染予防の為、運営推進会議は1回のみ開催、家族会は中止とした。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議時に職員の意見・要望を提案する機会があり、運営に反映している。また、日々の業務の中でもコミュニケーションを図るよう心掛け、意見を聞き出すようにしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課を実施。ワークバランスをなるべく均等にしたり、職員に確認しながら業務改善を行ったり、労働環境の整備を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用時は制限を設けず、人柄や働く意欲のある人を重視している。また、幅広い年齢層の職員を採用している。研修や資格取得のためのバックアップ体制を取り、社会参加や自己実現の機会が得られるようにしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の尊厳を尊重することを理念に掲げ、人権教育、同和問題について内部研修を実施。研修内容は全職員で共有できるように、報告の場を設け配布している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を共有すると共に研修の参加を呼びかけている。また、職員会議にて研修報告の場を設けている。自己啓発のための資格取得を志す職員に対しては、勤務日程の調整を行い、研修に参加しやすいよう取り組んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接している特別養護老人ホームの慰問に参加している。又、入居者と相互訪問し交流を図ることでサービスの質を向上させる取り組みをしている。今年度はコロナウイルス感染防止の為に中止とした。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前や入居時に本人より希望や要望を時間をかけて尋ねるよう努めている。また、新しい希望や要望が見つかった場合には、家族に報告し、解決を図るよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	パンフレットの配布や見学（コロナ禍では写真を見てもらっている）をしてもらい、雰囲気や味わってもらっている。相談時や面会時に家族の意向を確認している。入居後しばらくは要望等に対しての報告を随時行い、家族との関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居見学時に家族との面談からどういった支援が必要なのかを確認し、必要であれば他サービス等の説明を行い対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴に応じて園芸や野菜の収穫・野菜そろえや洗濯物たたみ・食器拭きなど、職員と一緒に作業を行っている。日常的に共に過ごし支えあう関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に2回家族も参加して頂く催し（夏祭り・クリスマス会）を開催し、入居者と過ごして頂く事により、共に本人を支える機会を作っている。また、家族との外出や自宅へ時折帰られる入居者もいる。今年度はコロナウイルス感染防止の為、中止とした。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染率が減少した際には面会制限を緩和し、知り合いや近所付き合いのあった方との面会を実施し、関係性が途切れないように努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の些細なトラブル等もミーティングにて情報共有し、関係を把握している。テーブル席の配置等考慮している。レクリエーション活動の参加の声掛けを行い、孤立しないよう支援を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設入所で契約が終了しても、同法人内の病院や施設であれば状態確認を尋ねた。入居者も同行し面会する事もある。今年度はコロナウイルス感染防止の為控えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者一人ひとりに担当職員を配置、センター方式を活用し、本人の意向の把握に努めている。年3回の利用者懇談会での意見や要望も日々の暮らしに反映している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や関係者より生活歴や環境、サービス利用の経緯等を尋ね把握に努めている。入居前施設や自宅に面談に出向き、本人の状態把握にも努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や日中での様子観察を行いながら、一日の過ごし方や状態変化等を記録し、朝夕の申し送りにて情報共有を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族、職員の意見を反映した介護計画を作成している。各入居者に担当職員がおり、6ヶ月に1回又は状態変化に応じモニタリング・介護計画を見直している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日常生活の様子やケアの実践・結果、気づきを記入し、情報を共有している。また、対応方法の変更の場合には、職員が数日間試した事の対しての記録を残し、それを基にカンファレンスを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の嗜好を制限をすることなく、入居者、家族の要望に応じている。個別の外出支援の際には家族と一緒にいく場合もある。今年度はコロナウイルス感染防止の為に実践できていない。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	無断外出時の搜索の協力を所轄の交番に依頼している。公民館での行事・活動への参加を行い、地域の方と一緒に活動を行っている。今年度はコロナウイルス感染防止の為に実践できていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望するかかりつけ医の確認を行い、現在は同法人の病院受診を受けている。同法人以外にも受診支援を行っている。毎月担当医師の往診を受けており、また週に1回看護師が訪問、医療連携を実施し状態変化に対する相談対応も行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の病院看護師と連絡が取れる体制であり、夜間の急変時も指示を仰ぐ事ができる。介護職員が気づいた状態変化はすぐに管理者、病院看護師へ報告し、適切な受診やケアを受けられるように支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	洗濯物預かり交換のため病室へ立ち寄り、看護師に状態確認、把握に努めている。地域連携室と情報交換ができ、必要時に相談できる関係である。今年度はコロナウイルスによる面会制限もあり、病院のSW・病棟看護師との電話連絡にてやり取りを実施した。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化に伴い連携医療施設との連携を図りながら、重度化や終末期のあり方については家族の意向を組みながら対応している。また、その際は施設での対応等説明を行いながら随時連携機関との共有を図っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について定期的に研修を実施、その都度職員会議にて全職員学んでいる。緊急時の対応マニュアル等、事務所内の目の届くところに配置している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の指導を受けて、火災・災害避難訓練・通報訓練を実施している。訓練後の消防署の講評や事後評価による反省点や気づきを踏まえ、災害時に活かせるよう取り組みを行っている。居室入り口には、個別の誘導方法を明示したプレートを掲示している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の要望や訴え等に対して誠意を持って対応し、名前の呼び方、居室やトイレドアの開閉等の配慮と支援を行いながら、個人の尊重に努めている。職員ミーティングの中で、接遇や不適切な支援について振り返る機会を持ち、内外の研修機会を確保し、職員の意識を高める取り組みをしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人一人が自己決定や自分の思い等を表出出来るような雰囲気等の環境整備を心がけ働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中での過ごし方や夜間の入床される時間等の様々な場面における自己決定を尊重し、なるべく入居者の希望に近づくような支援に取り組んでいる。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回外部より理容訪問を受けている。家族、本人より希望がある場合は馴染みの理容室へ家族同伴で支援していただいている。今年度はコロナウイルス感染防止の為理容訪問のみを受けている状況。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者懇談会にて嗜好や量について要望を聞き取っている。また、季節を感じられるよう行事食の提供や状況により入居者に料理や後片づけ等の役割を担っていただいている。今年度はコロナウイルス感染防止の為、外出支援は実施できていない状況。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回食事量や水分量は記録し、摂取量の度合いにより看護師や医師に相談している。入居者の好みの物が摂取できるように家族の協力を得ている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、支援が必要な入居者には一人ひとりにあった口腔ケアを支援している。義歯洗浄も行い清潔保持に努めている。また、訪問歯科医による指導・助言を受け、支援に活かしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、個別のパターンの把握やサインを共有し、日中はトイレでの排泄を基本とし、さりげない声掛けや誘導により、排泄の支援をしている。パットの使用も各人の状況により使い分け、不快感を和らげ、清潔を保っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックにて確認し、牛乳や発酵乳製品、繊維物を食事に取り入れたり、定期的に体操・運動を行い自然排便を促している。又、医療連携にて整腸剤等も含め対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日多くの方が入浴できるよう午前中から準備し、入居者の希望や体調、状況に応じて対応している。週に2回は入浴できるよう入居者に意思確認し、入居者の意向に合わせている。2つの浴槽が設置しており、気の合う入居者同士で入浴されることもある。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明、室温、衣類など調整に気を配り、自宅で使い慣れた寝具類を持参して頂き、安眠を確保している。入眠時間や起床時間は本人のペースに合わせており、本人の生活パターンにあわせた援助を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の効能・効果、注意事項等が記載された用紙を個人記録に綴っており、いつでも確認できるように配置している。内服薬の変更については申し送りにて伝達している。職員は病状の確認に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	計算プリント、絵・漢字カード、歌詞を見ながら歌を唄うなど、個人に応じた機能が発揮できるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日には担当者と外出に出かけたり、月行事にて季節の花見やドライブなどの支援もしている。家族の協力も得て、定期的に自宅へ帰られる方もいる。南向きにあるテラスや中庭に車椅子用のスロープが設置され、天気が良い日には外気浴を楽しんでいる。今年度はコロナウイルス感染防止の為外出等は実施できず。中庭・周囲の散歩を行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族承諾のもと、自分で少額所持されている方もおられる。金庫でお小遣いを預かっている入居者の方でも、希望時には家族へ確認し、必要に応じて希望の物を購入したりしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	2ヶ月毎に入居者の写真を送り、その際スタッフが日常生活の様子等を報告している。また、入居者が電話を使用したい場合等は自由に使用できるようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、日当たりのよいホールは明るくゆとりのある広さの開放的な共有空間である。室内の壁には行事の写真を掲示し、中庭に面して配置されたソファーには、その時々居場所として、豊かな暮らしの語り場となっている。テレビの音量も入居者の希望に応じて調整。気温や湿度に気を払い、定期的に換気や空調管理をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士が談話したり、テレビを見たり、自由に出来るようにしている。中庭には椅子を置き日光浴もできるなど、仲良く過ごせる場を提供している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの家具、寝具、家族の写真等の持ち込みをお願いしている。居室入り口の名前プレートの裏面には、個別の状態の応じた避難方法が示されている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで段差がなく手すりやスロープが設置されている。各居室には名札や写真を飾り分かりやすいようにしている。可能な限り自力での移動、動作を支援している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		